夕刊
磐城新聞
八月五日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄一行金六拾錢 特殊欄一行金九拾錢（場所指定一行一回 五號十二字詰）
編輯印刷兼發行人 柏木哲 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞 合資會社
登錄電信略號（タイライワキ） 平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八・五五六五番

天氣豫報
小名濱測候所觀測
今晩も明日も南の風晴

一癈人から
——西田新夫氏へ——
櫻町生

（中）

『物云はぬ四方のけだものすらだにも、あはれなるかな親の子を思ふ』と、實朝の詠んだ、ごくありふれた親子の情に、ハッと心をうたれる様なことはおそらくあるまい。だから、最後に淸き一點を投ずると推奨した句の、もち味に、どれ程の眞味を感じたかも實は疑はしい

一讀して感じるのは、此の人は、俳句を知らない人だと云ふこと、もし知つてるとしても、單に、誰かの評釋でも覗いたか、乃至は教科書俳句にでも俳句の概念らしいものを上面から撫でた程度の知識と見るより外なく、かへつておかしい位である。何故なら、多少とも、俳句の何たるかを解する人だつたら俳人郎癈人句會即苦會の、暴言、愚言は、吐く譯がなく、また吐けない道理でもある

だから、俳句の味ひ方も知らない。句は解釋するものではなく、味ふものである。どんな句でも解釋するだけだつたら何の面白味も發哲さもない。有名な古池やの句の如き、なんだ、古池に蛙がとびこんでポチャンと云つた。至極あたり前こんな馬鹿にした句なんてあるものかとなる。西田氏は、お多分にもれず、此の句は、体驗、思索、情操を通じて、心と心が、ふれ合ひ、心に迫り、始めてほんとうの味が生れ、よさが生れる

分らない、分らないと一途に排撃して居ては、恐らく、いつまでも分るまいし同時に自分の内面生活の貧相を暴露し、憐愍を買ふのみである。それなら、むしろ井戸の中の蛙らしく、ポチャ/\やつて居なさいよ申上げたく、屁理窟を云つて、默々して居るひまに、ほんとうの俳句の味讀法でも覺わたらと餘計なことまで云つても見たくなると云ふもの

『文學靑年なんて、よく屁でもねらところに、やれかなしいの、うれしいの、なつかしいのと。女學生宛のラヴレターを書くもんだが!』こんな風に、大見得切つてそりかへる處まことに可愛らしい昂奮の仕方で、矢張此の人も他愛のない文學靑年らしいと分る

夏

○母と子と語り終りて涼みかな　岬　由貴美智
○水草の影をうるほす夏の雨　橋本光人
○植込みに反古紙白く月涼し　熊見發次郎
○釣人の影に浮草流れ來る　吉田碌月
○まろび居る西瓜に夏の日の暑き　高塚忠志

父逝きて
佐分利晃

無情の風に誘はれて
逝きにし父が跡とへば
夜露にぬれし草叢に
光る螢の灯も訖し

日暮れは悲しひぐらしの
なく音は父が死を悼む
ひとむらしげき草の邊に
浮びて白し百合の花

花かんばしく星ありて
光もおぼろにあじきなき
自然のたくみ變らねど
行方を知らぬ人の旅

花咲く春は年毎に
めぐりめぐりてくるなれど
父にまみゆる日をぞなし
たゞあととはんねんごろに

8月6日

△伴天連宗を禁す（慶長一八）△幕府品川沖に砲臺を築く（嘉永六）△米騒動起る（大正七）△テニスン生る（一、八〇九）

山邨訪友
珠雲　小野務平

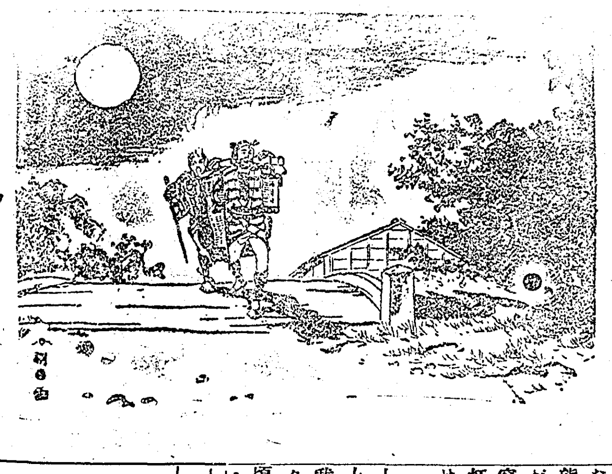
嫩綠陰新杜宇鳴
山邨景趣滿籬崎
賢妻爲我羞雞味
傾倒靑罇到五更

講談

妖刀流轉（えうとうるてん）
(158)　邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

つけ込む弱點（三）

九郎兵衛は今一文無したといふのを聞いた熊吉
熊『だからよう、何を私だつて無え袖を振れとは云はねえや、金がなければ品物だネ、それも此方に望みが有るてえのは、今お前さんが中川から貰つて來たその刀が、引出物に受取つたからは、お前さんに取つては無くてはならない大切な品そこが此方の附け目だから何うにか話の恰好のつく迄そいつを抵當にお預り申し度ええのさ
九『エつ、此刀を欲しいと申すか』
熊『コウ/\何もそんなに目を丸くする事はねね、大丈夫だよ、私も熊吉だ、質に入れたり流したりする様な事はしねえ、何時でも纏まつた金と引替るまで其の長物を預からうといふのさこれが本當の延金だらう、それも嫌だと云ひなさりやア、私にも考へがあるからネ』
と足元へつけ込んで、熊吉が何でも刀を渡せと迫る斷つたら何を云ふか判らない、すつかり弱點を熊吉に掴まれて居る九郎兵衛だから、絕對絕命據ろなく、かの風呂敷包を引よせて白鞘



の一刀をじつと見てゐましたが、熊吉の前へずつと差出し
九『それ程申すなら是非に及ばん、拙者に他議のない證據として、大切の品ながら、この一刀を暫時預けるが、呉々も紛失して呉れるなよ、知行も極り金子の融通さへつくように成つたら更めて相談致し、この刀を返して貰ふように致すから他言は勿論無用に賴むぞ』
繰返して念を押した
熊『大丈夫だ御安心なせえ金の脇差といひてえが此奴は刀だ、確にお預り申しました、それでは軍藏さん又お目に掛りますせ』
と熊吉が立上る、その後姿を見送つた熊藏の眼が、ギラリと怪しく光りました白鞘の一刀を風呂敷に包み、ズイと熊吉が立上つたのを見ると、九郎兵衛の軍藏は慌てゝ
軍『待て熊吉』
と止めた、振返つた熊吉
熊『アゝ驚いた何ですね』
軍『肝腎の事を聞くのを、忘れたが、今その方の住居は何處だ』
熊『オツト違えねえ、乃公も粗忽かしいや、すんでの事に忘れるところだつた、昨日の一件で中川の狂人息子に、殺された興四郎の家は、板橋の先きの白子ですが、それから又奥へ入つた大和田といふ所だ、これでもかつぽけな家が有りやす何卒お約束の金子が出來たら、成たけ早いところ此長三ヶ月はお定まりなど野暮臭え事は云はねえが、餘まり延びると私だつて錢がなくなりやア苦し紛れに何う始末をつけねえとも限りませんからねえ、成るたけ、早へ處をお頼み申しますせ、では軍藏さん、ぢやアなかつた中川の若旦那、御免なすつて下せね』
包を抱へて悠々と、熊吉は出て行つた
跑まで頭から人をなめ切つた所業と、九郎兵衛は心中にヂリ/\したが、今の場合何うする事も出來ない中川新左衛門から貰ひ受けた一刀の、中身をも見ずに熊吉に持つて行かれましたが、若しこの時に軍藏が内容を檢めたら奇異の感にも打たれ驚いたに違ひありません、
熊吉は三十兩を懷にした上、九郎兵衛から一刀を卷上げ、得意になつて夜道を我家へ歸つたが、只今ならタクシーでも奢る所を、そ頭故辻籠を雇ひ、我家へ着いたのが夜中で御座います

產業振興と過剩勞力利用
四家平職業紹介所長談（七）

以上の如く職業紹介所は職業の紹介をなす計りでなく、こう云ふ方面にも手を延ばして世話して居るのでありますからどし/\職業紹介所を利用すること、は皆様の得策であります。殊に職業紹介所は就職資金や旅費を貸付る計りでなく就職のため旅行する者に對しては申請によつては汽車、汽船賃の半額割引證を發行するの外周旋屋の如く手數料等は全然取らないのでありますから周旋屋や事集員等から金を借る事なく職業紹介所を利用することが最も便利であります

四、出稼の慣習なき爲め當地方は他地方に比し從來著しく生活難の苦みを嘗める爲め出稼とか移民とかをなす必要がなかつたのと人口の增殖率も現在の如く著しくなかつたため二三男坊も家業に從事して居れば遲かれ早かれ同じ家業の所に婿養子になり得ると云ふ目當があつた爲め進んで出稼をなし移民をなすと云ふ考へも起らず祖先傳來の遺產に依り生活し得たのでありますから出稼や移民等をなすものは能く能く喰詰め者か若くは其町村の異端者扱を受けたる者が己むを得ずする仕事の如く考へられた爲め益々出稼を卑下し移民を厭ふことになつて居つたのであります

廣告
おでん
一平（イッパイ）

井坂産科婦人科醫院
電話二六三番

小料理の味も美味（うまい）ぞ
仲田町
一度來て見よ
主婦（おかみ）翠月
淺酌低唱に御相手に藝者さんもはいります。

男女學生夏服
高嶋屋の洋服
新柄 背廣 レンコート
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

新興平都市の名物に
七夕祭がおとづれてまゐりました。
各種材料紙豊富に取揃へ格安大勉强致します。
◎吹流用＝艶紙テープ（各色）六分巾
◎テープ（同）三分巾
同 六分巾
同 一分巾
◎藥玉用＝ビレー紙（五色）
レデー紙
◎其の他＝金〃銀〃紙…艶紙…手工紙（大判）
パラピン紙‥セロファン紙…ボール紙
七夕紙（大判・並判）
和洋紙文房具の 坂本紙店（平市1 電18）

お盆提灯大賣出し
絹張燈、牡丹行燈、都行燈、御殿行燈、スダレ行燈、二連行燈、紋天行燈、猫足行燈、其の他變り形
他店にて見られぬ特約品澤山取揃へました。
平市四丁目角
菅野屋商店
電話一五七
遠近に不拘見本を持參いたします。

廣告
亡父豊吉儀新盆に相當り候得共時節柄誠に勝手がましき御願ひ乍ら提灯其他御供物等一切御辭退申上度謹告候也
敬具
市內六間門
大和田忠良

※祖先崇拜は家庭繁榮の礎※
愈々盆が近づきました
◎盆の御用意は是非當店へ
佛壇 位牌 塗佛 佛金具類 豊富に取揃へてあります
値段ばかり安くても品質粗末では勉强でありません
安いだけでは店はハヤラヌ…
◎市制記念奉仕!
◎當店の自動車にて御歸りサービス致します
平市四丁目局通り
佛具造花 山光堂問屋（電話五五〇番）
四ツ倉支店 博善社
木戸支店 榮玉堂 造花店

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

互融會事業近況
電話五五五番お忘れなく
事業報告 昭和十二年六月中
融通口數 一七三口
融通金額 八、八九五、五〇
滿期拂戾金額 五四口
滿期拂戾金額 二、四三〇、〇〇
概況昭和十二年六月末現在
會員數 七、五六六口
會員世帶數 四、九七二戶
積立金額 九一、一一〇、四〇
融通金額 三三、一一九、〇〇
回收金額 四五、五〇五、八〇
滿期拂戾口數 二八〇口
滿期拂戾金額 九、八五五、〇〇
一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日稅立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平市揺槌小路一番地
電話五五五番
小名濱方部 小名濱町古湊
湯本方部 湯本町宮町
菊田方部 植田町堅町
相双支部 原町東一番町

七夕祭
彩色繪はがき
○○○○お待ちかねの七夕祭り繪はかき漸く出來上りました、二日から發賣開始致します
極彩色の素晴らしい出來榮です、お客様のお土産に——、また暑中見舞ひや七夕祭案內狀に御利用願ひます
七夕祭繪はかき（極彩色刷）
一組八枚 金二十錢
福島民報平支局
平市田町五〇（電六一二）

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郞

御贈答品には
ニンベン
かつをぶし
宍戸屋商店
平市四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

時局に燃ゆる乙女の感激全講堂に渦まく
銃後の訓話に磐女生奮起

國家の爲め一切を拋つて最高の犠牲に赴きまた生還を期せぬ我等の在滿支兵に對しては今や同胞間に大なる感激の旋風を捲き起し、献金に慰問品に涙ぐましい銃後運動は至るところ加速度的に高潮されて行く中に、縣立磐城高等女學校でも今五日朝、汽車通學生四百餘名の登校日を機とし、正木校長から暑休中の監督に關し諸般の注意訓示あつた後、皇軍の爲め各自慰問袋を作製して自町村役場に寄託する件に就て一場の訓話を試みた處純眞な乙女心のさらでだに愛國心に燃ゐて居た折柄とて非常な感激を以て之を傾聽し場内には其所彼所にすゝり泣きの忍び音さへ起るなど歸宅早々その實行に入るの決意を示した。尚ほ市内及び近郊からの徒歩通學生約五百名の登校日は來る二十二日であるが此分も本日の空氣を傳へ聞き同樣市役所村役場へ寄託方を申し出づるもの多數に上るものと看取さる

七夕を節約して献金
三丁目青年團で 九十六圓餘纒まる

例年ならば絢爛たる五彩の飾りで街を埋める名物『たひらの七夕』も既報の如く昨今の時局に鑑みて特に軍國氣分の節約から、その一部を夫々献金することゝなつたが三丁目青年團ではこの方針に基き過般來團員總出で應分の献金を求めた處その額九十六圓三十錢に上つたので四日國防費として市役所に寄託した

財布の底を叩いて……

平署への其後の献金寄託左の如く合計三百五十九圓二十一錢、このうち東京市荒川區南千住二丁目石橋辰市さんは目下市内長橋町旅館に宿泊中で『身体が弱く、兵隊へ行けぬが恨めしい』と財布の底を叩いた小錢を取りまぜ金五圓を慰問金へ寄託したもの

△五十圓江名信用販賣購買利用組合役員一同△二圓三十錢(外に菓子一纏)內郷村綴佐藤一夫△五圓東京市荒川區南千住町二丁目石橋辰市△五十三圓江名豊間健康保險組合員△六十二圓二十錢平署管內理髮營業組合員△十圓八錢箕輪第二青年團△五圓箕輪第二女子青年團△六圓六十三錢箕輪第二小學校職員兒童一同

勿來國婦會員活動

勿來町國防婦人會九面班では國防費献金のため目下同海岸に賣店を出し會員總出動でサーヴィスに當り好評を博してゐる

驛前に歡迎塔
七夕祭り近づく

十一日から三日間の七夕祭りに際し平驛では驛前廣場へ高さ六間に一間四方の『七夕歡迎塔』を建て、その側面に至誠奉公、擧國一致等の非常時スローガンを大書して市民見物客の軍國意識を强調する

。。。。。。。町村事務指導會。

町村事務指導會を來る九日植田町、翌十日平市會議事堂に開く 縣地方課から係員臨席

海航豫科生
第一次試驗に 郡下で三名パス

海軍航空飛行豫科練習生第一次採用試驗の本郡合格者左の如く第二次試驗を十日から四日間福島公會堂で執行。

好間村遠藤昭 同酒井實雄 山田村秋山愼平

遠藤君は好間村今新田小學校訓導菊次郎氏長男で磐中五年生、酒井君は同村北好間喜好氏の弟で同四年生

警官精勤加俸

三日發表された縣下警察官精勤增、加俸中郡下三署の分左の如し

△精勤證書 (平)巡査遠藤定雄 (植田)同遠藤弘吉 同遠藤榮助 (四倉)巡査部長木村淸吉 巡査佐藤信雄 △精勤加俸 (平)巡査菊地作次郎 同森道康 同板橋源次郎 同石井耕泉 △精勤加俸 (四倉)同矢部七郎 (平)巡査金田寬

目指すは神宮舞台
先生達の合宿練習

平及び郡下小學校敎員体育部では來月二十三日會津中學校に明治神宮大會豫選を兼ねた縣下敎員体育大會が開かれるので早くも炎天下に練習を開始、來る二十五日から五日間は平第三小學校に合宿練習を行ふ

必ず期限を誤る勿れ 之亦銃後義務の一つ
平稅務署警告を發す

平稅務署では臨時租稅增徵法の實施に伴ふ增額に原因してか去月末を納期とする第三種所得稅の納入狀況が從來に比し非常に不成績の爲め、時節柄之が完納方に就き高屋署長以下少からず腐心中の旨昨報の通りであるが、尙は銀行會社等に對する第一種所得稅、營業收益稅及び資本稅に就てもまた同樣の傾向あるべきを懸念し納稅告示書に左記印刷物を添へ期限內完納を警告する處あつた

非常時に際し國民一致結束東洋永遠の平和確立の爲め奮起を要するとき納稅を通し國費の圓滑を期するは銃後の義務と存じます。種々御都合も御座いませうが今回は皆樣の愛國心に訴へ期限內完納する樣特に御願ひします

松永敎授講演
神職會總代會で

神職會石城支部では六日午前九時から平第三小學校に氏子惣代會を開いて永年勤續惣代五十七名を表彰、午後一時から國學院大學敎授松永材氏の『日本國體の本質』と題する講演を聽く、一般來聽歡迎

運轉手試驗合格者

此程行はれた本縣運轉手試驗の合格者中地方關係左の如く、合格者は至急申請書を提出されたいと

(運轉免許)平—安藤畔 鈴木金太郎 白石淸己 國井六郎 野木文作 鈴木秀嗣 赤井—草野一郎 豊間—中山朝次郎 小名濱—蛭田周藏 上遠野—上遠野朝次 江名—小野良枝 勿來—後藤儀佐次

(就業免許) 小名濱—宮下幾吉 內郷—小倉喜助 四倉—酒井正

日歸り臨海團通信
平第一小學校

（4）

四つ倉への遠足

小松原を 歩いて行く
サク／＼と 鳴る砂の音
松の葉風 波の呼び聲
白い路は 未だ遠い
小松葉越し 海が光る
ピカ／＼と 白帆は遠い
揃つて行く 僕等は元氣

四つ倉には もう直ぐだ

今日は四つ倉へ遠足だといふので僕等は朝からもう嬉しさで一ぱいだつた。隨分暑かつたので午前中は水遊びをして暮した。お晝が終るとぼつ／＼遠足の用意をして出發だ。根本先生が先頭に立ち僕等は一列になつて松原の道を四つ倉へ進軍だ

×

四つ倉はやつぱり賑やかだ。青い海、白い砂、美しいビーチパラソルが其の間に花を咲かせた樣だ。

砂原に着物をぬいで海へ入る。淺い海だ。海で思ふ存分泳ぐのは今日が始めてなので夢中で泳ぐ。やつぱり四つ倉はいい所だ

×

泳ぎに疲れて砂原で相撲を取り始めた。根本先生が行司だ、忽ち見物の人が黑山の樣に集つて『双葉山がんばれ』『それ王錦』なんて盛んに應援して吳れる。土俵では皆本氣で熱戰を繰り返して見物の人達は拍手喝采だ

×

お八つは砂原で麥湯を呑みながらゆで卵と丸友さんからいただいたパンとおだんごをおいしくいただく

お八つの後少しの間自由に遊んで間もなく歸る仕度にかゝる、時間は四時半

帆かけ舟が次から次へと歸つて來るので僕達も自動車の來る間舟繋場に行つて獲物を見物する。一艘の舟で大きなはつき貝が幾箱も幾箱も岸に上げられるのに驚く

×

自動車が迎へに來たのは六時近かつた。今日は登校の時間が無かつたのでほんとに疲れた。でもとても面白い一日だつた

夏繭出廻豫想 六萬二千貫
最盛は來十七日頃

郡下の山間部方面はいま夏蠶の上簇が迫つて忙しい、蠶業取締平支所最近の調査による收繭豫想は左の如く六萬二千貫、出廻り最盛期は上遠野村が來十三日で他は十七日頃になると云ふ

川前村一、四〇〇貫 永戸箕輪二、〇〇〇貫 澤渡三阪一、八〇〇貫 上遠野一、〇〇〇貫

平市教育部會 本格活動は來年から
差當り既定豫算を踏襲

市制の實施に伴ふ郡敎育部會の改組は既報の如く一昨三日の協議會に於て市、郡の分離獨立を決定したが平市敎育會は十二年度豫算決定後の今日であり、之等に就ては性質上不可分の關係に在るので當分は名稱及び區域の變更程度に止めて他は大体從前の方針で進み明十三年度より市獨自の立場に適應する豫算を編成し機構の企画的改正を行ひ多分の新味を盛つた事業計劃が進めらるゝものと觀られてゐる

平市教育部會委員
近く創立總會を開く

平市敎育部會の委員は五日左の四校長に決定

篠山第一 千葉第二 赤津第三 松崎第四

簡保年金觀劇の夕

平郵便局主催『簡易保險郵便年金加入者觀劇の夕』は明六日より四日間每夕六時聚樂館に於て曾我廼家五郞劇を開催するが料金は各地三十錢の處優待劵持參者に限り十錢であると

相笠君の死體判る

既報—去る丑の日に四倉濱で引潮に呑まれて行方不明となつてゐた市內一丁目下駄商相笠昇(二四)君の死体は五日朝同海岸に漂着した

市內各局電信電話取扱
新川町胡摩澤は明日から

市內新川町、紺屋町、胡摩澤の各郵便局では從來電信電話の事務を取扱はなかつた爲め之等の用務は一々本局によらねばならず非常に不便であつたが新川町、胡摩澤は既報の如く愈よ明六日から、紺屋町は少し遲れて何れも取扱ふ事になり其の方部の市民にとつて非常に便利になつた

錦局。。。。。。。電話事務開始。

錦局でも六日から電信電話の事務を取扱ふ

舊六月二十九日 金曜 乙丑 先勝 破 婁宿 新八月六日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 外廻りの事には吉なれど內輪の事には注意▲二黑 身分相當才力相應の事には差支なく向上す▲三碧 豫想は至極結こうなれ共時到らず進むに早し▲四綠 時運の開通するを待ちみだりに進むべからず▲五黄 目標は一本筋なり他に外れざる樣注意せよ▲六白 自他共に有利となる援け助けらるゝが大吉▲七赤 業績次第にぼう張して基礎益々堅實味を增す▲八白 努力する所大なれば和する所亦多かるべき日▲九紫 天來の福運に惠まる日熱心努力は成功のかぎ

六日 (小名濱測候所發表) 滿潮 前二、五〇 後五、一九 干潮 前一〇、二五 後一〇、二〇

平第一臨海學校 勿來だより
(第四信)

氣持ちよくひゞく起床サイレン。疲かれが出た今朝はなか／＼に起きられない『起きろ———』の大きな氣合でしぶ／＼と起きる人もある。宿舍生活も馴れ、先生の世話もなく寢具の整理掃除、洗面と次ぎ／＼に進行する

×

九時頃、お父さん、お母さんの姿も見れた『お母さん……』とお母さん戀しさの『アマイ』聲があち、こちから聞ゐる（たつた四日だのに、そんなに戀しいかなあ——）……だが、僕のお母さんも來てくれたら………

お母さん、弟たちをお供にして、勿來の關趾に登る山坂道を左手に勿來の海岸をながめながら、老櫻、古松の間を通る

『吹く風を勿來の關と思へども道もせに散る山櫻かな』

源八幡太郎義家の歌で、天下に名高い我が鄕土の誇の地だ

永野修身大將の『山櫻われも日本の武士にして』の碑もある。なんだか非常時日本の今日、我々子供に與へられた敎訓の樣な氣がする。我々子供も、やがては………とほぞをかためねばなるまい

お土産にいただいたお菓子をおやつにいたゞく

×

山道を下りて海岸に出る今日は人出が多い海邊はにぎやかだ。わざ／＼宿舍からとどけられた辨當をバラック內で食べる。立食もおいしい

海の光はあつたかいが、体がじり／＼する。いたいでも『我も日本の武士の卵にして』だ。がんばれ／＼

今朝から、三森先生、鈴木愛三先生がおいでになつた。先生方も新手の兵がまじつて、なかなか元氣です

×

飛行機が空高く飛ぶ(略)

汽車が長く長く續いて走る

僕等は兩手を高く、萬歲を叫んだ

×

『だいふく』のおやつはおいしかつた

四時歸舍して自由の時間となる。五枚、六枚とたばにして手紙を出す人もある

(八月四日)

海
五年 平野宏一

海、海
僕たちが行くと
さわぎ出す
一しよに遊びたいのか
うれしさを叫ぶ

『第二の師』
六年 草野昌平

『海』

此の晴々とした、何物をも恐れないといふ樣子が此の字一面に書かれてゐる『海』

此の晴々として何物も恐れないといふ『海』の字此れが我々の第二の師なのだ

あゝ、我等もあの晴々とした、何物をも恐れないといふ海のやうな海國男兒になりたい

それは先づ、健康だ、勉强だ

平市の實現とタイアツプ—

パーマネントマシンを設備

時代の要求する女性の美こそ永もちのあるパーマネントウエーブを！ 進む時代に向つて遲れぬ設備ある弊院は此の際皆々樣に是非パーマネントウエーブをおすゝめ致します

最も安く!! お氣輕に!!! そして親切に!!!

(高級藥品使用) お値 七圓 五圓 三圓……カール一式

水野化粧院 水野冬子

平市驛前 電話六七八番 自宅 電話五二五番

七夕材料

今年ハ市制記念トシテ一層キレイニ飾リマショー

五色短尺。紙テープ三分六分。パラピンテープ。ツヤ紙テープ。金銀星。光玉各種。楠玉四寸ヨリ二尺マデ。金銀紙。紙風船大中小。コンクモール。セロハンテープ。飾玉提灯其他特ニ新品澤山取揃ヘテ皆樣ヲ御待チ致シテ居リマス。

七夕材料卸 平市一丁目 **森下商店**

◎お新盆提灯に御注意!!!

近年各地に於て再製提灯が市場へ出る爲めお贈りの方も頂いた方も誠に迷惑され又失禮にもなりますので製造者の間で相談の上今年の品物へは必ず 昭和十二年製 牛印 赤色マークを入れてあります。御買求めの際は必ず御忘れなく昭和十二年製マーク入と御指命下さい。

昭和十二年八月 **提灯同業組合**

新盆の戒名入提灯

例年の通り御安く御注文に應じます。

弊店の提灯が……體裁が良くて値段の最も安い事は自分で一切の製造仕上げをする事と場所が不便の爲で有ります。

平市才槌小路 **金子提灯店**

お盆提灯大賣出し

一見涼風誘ふ優秀品 特製 **新型行燈**

變り型は數百種も御座います。御一覧下さい。

尙本年度より製造元にて新製品は昭和十二年製の責任マークを入れてあります。御注意下さい。

平二丁目 **福多屋**